

# 古文書倶楽部

## ふたつの「御城下絵図」と

### 「宝暦の銀札事件」

～秋田県公文書館所蔵文化財展より～

平成元年三月十七日、二点の絵図が『久保田城下絵図』の名称で秋田県指定有形文化財に指定されました。

どちらも『御城下絵図』という資料名の絵図ですが、「県C―一六五」は寛保二年（一七四二）の（以下、寛保絵図）、「県C―五九九」は宝暦九年（一七五九）の（以下、宝暦絵図）久保田城下の様子がわかります。

このふたつの絵図はわずか十七年ほどの期間で作成されたもので、町割に大きな変化はなく、寛保期前後に久保田城下町の形体はほぼ完成したものとわれていることがよくわかります。

しかし、このふたつの絵図はいわゆる「宝暦の銀札事件」（註）をはさんだ時期に作成されたものです。今回は、このふたつの絵図にみえる、特に三ノ丸に居住している上級武士が、銀札事件に複雑に絡み合っている事実を概観してみます。

寛保絵図には三ノ丸北東部（手形上町）に大越甚右衛門が居住しています。また三ノ丸東部（上中城）には真壁掃部助、真崎兵庫、小田野齋、山方内匠の名前がみられます。

【発行】

秋田県公文書館  
2013.7  
第54号

秋田県公文書館所蔵文化財展（前期）

八月二十三日（金）～九月二十三日（月）

時間 午前十時～午後五時

会場 公文書館2階特別展示室



「御城下絵図」（県C―一六五）寛保二年 ※部分

宝暦絵図には北東部に岡本又太郎、東部は真壁掃部助、真崎兵庫、小田野亦（又）八郎、松野茂右衛門の名前があります。



「御城下絵図」（県C―五九九）宝暦九年 ※部分

まず、寛保絵図の大越甚右衛門（貞国）は、享保二年（一七一七）から寛延元年（一七四八）八月卒まで三十二年間家老職をつとめています。この後宝暦五年からは子の徳国が家老になっています。徳国は山方助八郎憲自に密書を通じた罪により宝暦七年六月に終身禁錮となり、檜山に護送され宝暦絵図から名前がなくなりました。（裏面に続く）

その旧大越宅地に新たに居を構えたのが岡本又太郎元貴です。元貴はこれまで銀札発行を担ってきた家老真壁掃部助康幹・小田野又八郎正武が罷免された宝暦六年十一月に、彼らに代わって家老に就任した人物です。

そして、岡本とともに家老に抜擢された山方助八郎憲自は、寛保絵図にみえる山方内匠泰該の子であり、前述した通り大越側につき岡本側と対立し、宝暦六年六月に切腹の刑に処せられました。

また、この政変収束直前の宝暦七年六月、松野茂右衛門綱武が家老になり、山方助八郎の跡地を拝領しています。

今回ふたつの絵図を比較し、その違いを『国典類抄』をはじめ『佐竹家譜』、各家の「系図・由緒書」などを確認することで、それぞれの人物の相関関係を調べてみました。

絵図資料はデジタル的にインパクトがあり、身近で取っつきやすいことに加え、みるたびに隠されている新たな情報が発見できる歴史資料です。そしてそこから文献資料を調べることにより歴史を深く見つけることができるのも、当館所蔵資料の有効な活用方法かと思えます。

号 今年度の企画展は開館二十周年を記念して、当館が所蔵する有形文化財を多数展示します。

第54号 今年度の企画展は開館二十周年を記念して、当館が所蔵する有形文化財を多数展示します。みなさんのご来館をお待ちしています。

(註) 藩の財政赤字を解決するために、宝暦五年に実施した銀札発行における執行派と批判派との対立。この政策で流通は大混乱となり、多数の執行派が処分された。

## 公開講座のご案内



平成二十三年に開催した徳川林政史研究所公開講座 in 秋田「史料にみる江戸時代の森林」(写真)では、多くの方々にご来場いただきました。県外研究機関との共催事業は初めてでしたが、「今後も継続してほしい」という声があがるなど、好評のうちに講座を終えることができました。

ご要望にお応えして今年、第2回徳川林政史研究所公開講座 in 秋田を開催します。今回は共催機関である秋田県生涯学習センターが会場です。テーマは「改革の幕開け―村と山の復興と秋田藩政―」。江戸時代秋田の森林と林業の様相を、当時の秋田藩政や村々の状況を踏まえて解き明かしていきます。後半には質疑・討論の時間もありますので、積極的に意見を交換していただくことができます。

最新の研究報告に触れることができる貴重な機会です。ぜひ足をお運びください。

## 第2回徳川林政史研究所

### 公開講座 in 秋田

#### 「改革の幕開け

―村と山の復興と

秋田藩政―

【日時】十月十二日(土)

午後一時三十分～四時三十分

【会場】秋田県生涯学習センター

3階講堂

【報告】

金森正也氏 前秋田県生涯学習センター所長

「中期藩政改革をどうとらえるか」

栗原健一氏 徳川林政史研究所研究員

「村の飢饉と救済・備荒貯蓄

―天明期の秋田藩を事例に―」(仮)

芳賀和樹氏 徳川林政史研究所研究員

「復興を目指して

―山と川と村をつなぐ秋田藩政―」(仮)

【定員】一〇〇名

【申込方法】

必要事項(氏名・住所・電話番号)

を電話・ハガキ・FAX、または

直接ご来館の上お知らせください。

TEL 〇一八(八六六) 八三〇一

FAX 〇一八(八六六) 八三〇三

【太田研】

【鍋島真】